

看護連盟だより 77 号に寄せてご挨拶

会員の皆さまには、日頃より地域医療の最前線で看護の専門性を発揮し、患者さんの安全と安心を支えてくださっていることに、心より感謝申し上げます。本年度の診療報酬改定に向けては、各施設での準備や業務調整、情報収集など、多くのご負担があったことと存じます。厳しい勤務状況の中でも、新たな基準に対応しながら質の高い看護を維持して下さっている皆さまの努力に、深く敬意を表します。

一方で、医療を取り巻く環境は依然として不安定さを増しています。特に、ナフサ不足に伴う医療材料の供給不安は、ディスポ製品を中心に現場の業務継続に影響を及ぼしかねない重要な課題です。安定供給に向けた国の対策が求められる中、当連盟としても、現場の声を丁寧に届けながら、必要な政策的支援が確保されるよう働きかけを続けてまいります。

また、働き方改革、人材確保、地域医療構想の進展など、看護職を取り巻く課題は多岐にわたります。こうした課題に向き合い、より良い制度を実現するためには、現場で働く皆さま一人ひとりの声が看護の未来を形づくる大切な力です。当連盟は、その声を確かな政策へとつなぐ「架け橋」として、今後も活動を続けてまいります。

会員の皆さまのご理解とご協力に深く感謝申し上げますとともに、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

日頃の連盟活動と看護現場でのご尽力に深く感謝いたします。

本年の診療報酬改定 3.09% 引き上げは、皆様の「一票の力」と「現場の声」が政治を動かした大きな成果です。

日々現場で流す汗が正当に評価される社会を築くことこそが、看護連盟の責務。それを実現するためには、懸命に職務に当たる皆様が「政治」に目を向けていただくことが必要です。

一方、20～30 代の若手会員の減少が危惧されており、連盟活動の基盤が揺るぎかねません。若い世代に政治や連盟への関心を持ってもらう戦略が急務です。この課題に「青年部の支部化」「看護連盟のパーパス策定」「簡便なスマート入会システム導入」など多方面から改革に取り組んでいます。

一人ひとりの力は小さくとも、全国の看護職が結束すれば国を動かす力となります。全国調査で「親しみやすい」とされている栃木の皆様のコミュニケーション力を発揮していただき、共に看護の未来を切り拓いていきましょう。

いつも大変お世話になり、ありがとうございます。

2 月に行われた第 51 回衆議院議員選挙では 8 回目の当選をすることができました。これも常日頃、皆様からご支援とご指導をいただいたお陰です。

私は自民党孤独・孤立対策特命委員会委員長を拝命し、委員長として特に内密出産や子どもの自殺対策に取り組んでおります。また、JPPF 生命（いのち）の安全教育 PT 座長も拝命し、若年層への生命の教育に関するシンポジウム開催など、忙しい日々を送っております。そのなかで、皆様の業務改善のため、病院記録の課題の洗い出しと対策、電子カルテの 1 患者 1 カルテへの改善も進めております。

今後も看護職の皆様が安心して働き続けられる環境づくり、そして専門職としてのさらなる資質向上を支援するため、看護連盟の皆様と連携を密にしながら、より一層努めてまいります。

引き続きご指導ご支援よろしくお願い致します。



栃木県看護連盟会長

小倉佳子



日本看護連盟会長

高原静子



衆議院議員・文部科学大臣

あべ俊子



衆議院議員

たかがい恵美子

栃木県看護連盟の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より国民の健康と福祉の向上、看護職の発展にご尽力を賜り、心より敬意と感謝を申し上げます。

先の総選挙におきましては、温かいご支援を賜り、国政の場に立たせていただいております。皆様から託された責任の重さを胸に、全力で職務に取り組んでまいります。

医療・介護を取り巻く環境が大きく変化する中、現場の声を丁寧に受け止め、看護職の処遇改善と働きやすい環境整備に努めてまいります。

高市早苗総理の掲げる「攻めの予防医療」を推進し、疾病の重症化予防と健康寿命の延伸に向け、看護職の役割が十分に発揮される体制づくりに尽力してまいります。

現場の声を国政にしっかりと届け、看護の力が一層発揮される社会の実現に取り組んでまいります。



参議院議員

石田昌宏

栃木県看護連盟の皆様、日頃より多大なるご支援を賜り誠にありがとうございます。

国会議員等 400 名以上の参加の下、看護問題対策議員連盟を開催しました。各団体から要望が寄せられ、特に日本看護連盟・協会から、離島・へき地の看護活動や養成課程、医療提供体制等について、議連での集中的な検討が求められました。これを踏まえ、過疎地域の医療提供体制確保に向けた看護職員の活用や、地方での人材確保に向けたプロジェクトチーム設置が承認されました。

また、厚生労働委員会にて、専門学校の実員割れが常態化し、地方の医療機関における新人看護師の供給が途絶える可能性が高まっている現状を踏まえ、地域偏在の課題を指摘しました。厚生労働省では「2040 年に向けた看護職員の養成確保のあり方に関する検討会」が設置され、令和 8 年度内を目途に取りまとめが行われる予定です。

看護職員が安定的に確保され、その力を十分に発揮できる環境整備に向け、引き続き尽力して参ります。



環境大臣政務官兼内閣府大臣政務官
参議院議員

友納りお

栃木県看護連盟の皆様、こんにちは。

現在、第 221 回特別国会が開会しています。環境大臣政務官としての公務に加え、医療・看護政策を中心に日々全力で取り組んでおります。皆さまには日頃より医療の最前線でご尽力いただいておりますことに、心より感謝を申し上げます。

厚生労働省では、2040 年を見据えた看護職員の養成・確保の在り方に関する検討会が始まりました。少子高齢化が進む中で、人材確保、働き続けられる職場環境づくり、専門性の向上は喫緊の課題です。加えて、自然災害時の支援や、超高齢社会の進展に伴う在宅医療・介護ニーズの増加など、看護職に求められる役割は一層大きなものとなっています。

皆さまが安心して力を発揮できる環境整備にしっかり取り組むとともに、産後ケアを中心とした妊産婦のメンタルヘルス支援や、若者支援に取り組む議員連盟の立ち上げなど、誰もが安心して暮らせる社会づくりを進めています。

これからも現場の声を大切に、皆さまのお力になれるよう全力で取り組んでまいります。



足利市議会議員（看護師）

中島 まゆみ

日頃より地域医療を支えてくださる看護職の皆さまに、心より敬意と感謝を申し上げます。

本年は産休・育休から復帰し、市議会議員としての活動と子育ての両立に奮闘する中で、地域で安心して子どもを産み育てるためには、医療や看護の存在が欠かせないことを改めて実感しています。

現在放送中の NHK 連続テレビ小説「風、薫る」では、栃木県を舞台の一つに、看護の道を切り拓いた先人たちの姿が描かれています。看護の専門性や人に寄り添う力、その大切な役割に改めて注目が集まっていることを大変うれしく感じています。

少子高齢化と人口減少が進む中、医療人材の確保や女性の健康支援、孤立しない子育て環境づくりは重要な課題です。市民に最も近い立場の市議会議員として、市・県・国との連携を図りながら、地域の健康と安心につながる政策の実現に努めてまいります。今後ともご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。